

# 大槌町東日本大震災津波復興計画 基本計画 【概要版】

大槌町では、東日本大震災津波による甚大な被害から一日も早く復興を成し遂げるための未来の設計図として、「大槌町東日本大震災津波復興計画」の基本計画を、12月26日に開催された町議会臨時会の議決を経て策定いたしましたので、概要をお知らせします。

なお、本文は、大槌町ホームページに掲載しております。

## I 計画の策定

### 計画の構成及び期間

本計画は、震災復興に向けた基本的な施策の方向を示す「基本計画」と、その内容に沿って各施策に対応した事業のあり方を示す「実施計画」の2つの計画で構成します。

基本計画は、平成30年度までの8年間を計画期間とします。

実施計画は、第3期に分けて作成し、第1期の実施計画は、平成24年3月策定予定です。

23年度 24年度 25年度 26年度 27年度 28年度 29年度 30年度

### 【大槌町東日本大震災津波復興計画】

#### 基本計画（平成23年度～平成30年度）

#### 実施計画

第1期 ～復旧期～  
平成23年度～平成25年度

第2期 ～再生期～  
平成26年度～平成28年度

第3期 ～発展期～  
平成29年度～平成30年度

### まちの将来像

海の見えるつい散歩したくなるこだわりのある「美しいまち」

## 復興まちづくりの基本的考え方

### ●津波防災の基本的考え方

「避難する、避難できる」を基本とし、津波による犠牲者を一人も出さない「津波災害に強い安全・安心なまちづくり」を目指します。仮に被災しても人命が失われず被害を最小化する「減災」の考え方とし、①防災教育の推進や防災体制の強化、②防潮堤など海岸保全施設の整備推進、避難路や避難施設等の整備、高台移転や土地の嵩上げ、③住居等の建築制限など土地利用規制等を組み合わせた「多重防災型まちづくり」を取組の基本とします。

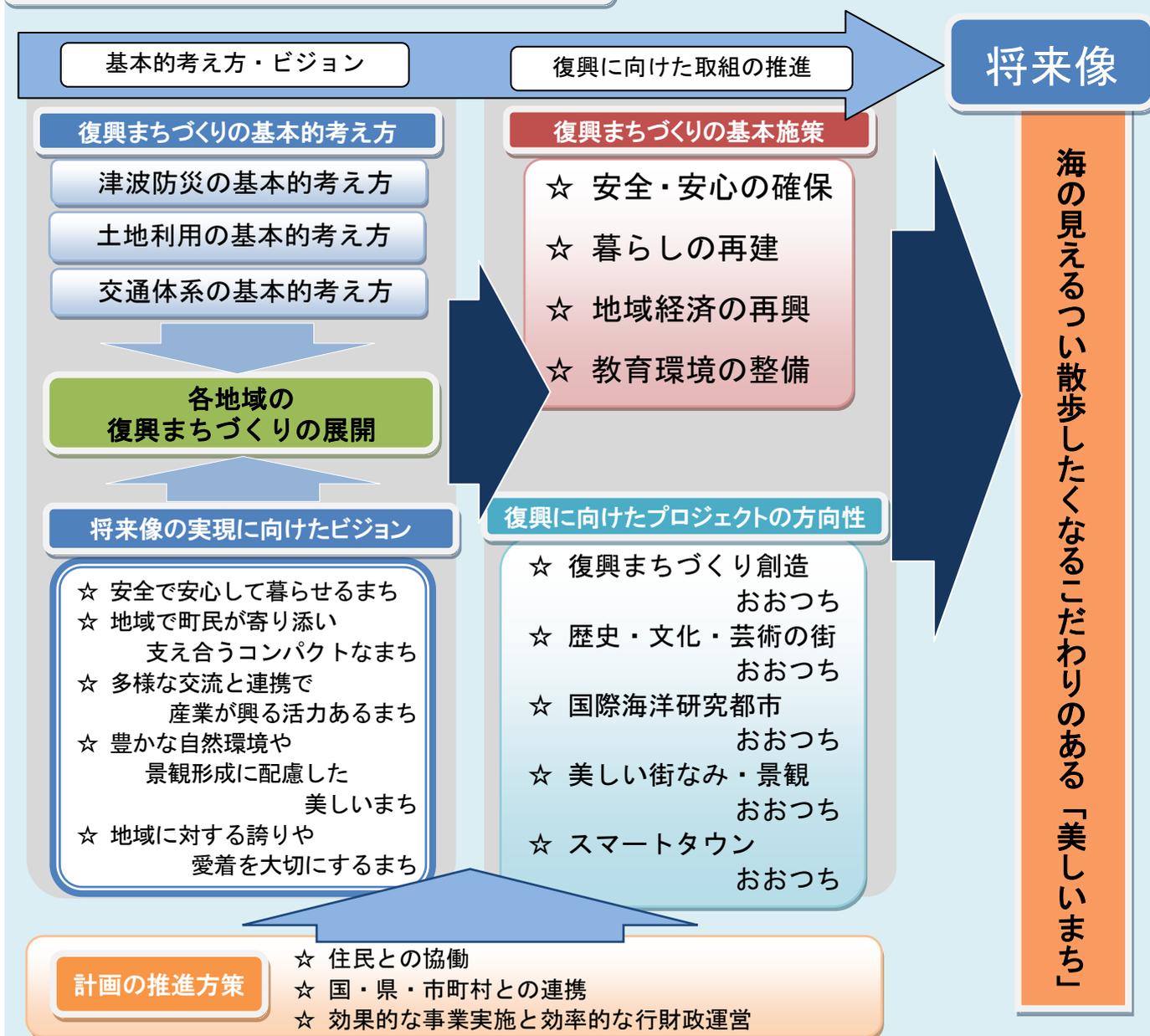
### ●土地利用の基本的考え方

高台移転を基本とします。この場合、高台等ですべての宅地等の確保は困難であることから、今回の津波浸水範囲に盛土するなどによって安全度を高めた宅地等を確保します。また、早期の生活再建を促進するため、公営住宅の建設を優先的に進めます。

### ●交通体系の基本的考え方

高規格道路として整備される三陸縦貫道が、国道45号が被災した場合の代替ルートとしての機能が確保されるようにします。また、防災拠点機能を有する町の中心部と町内各地域を結ぶ幹線道路について災害時の代替性をもつ交通ネットワークとして整備します。

## 復興まちづくりの体系



## Ⅱ 復興まちづくりの基本施策

### 1 安全・安心の確保

- 協働による防災体制の確立・充実（自主防災組織化の推進、地域防災力の向上等）
- 復興まちづくりの住環境の整備（地域別土地利用計画等の策定、土地基盤や公営住宅の整備等）
- 災害に強い社会基盤の整備（海岸保全施設の整備推進、交通ネットワークの整備、避難路等の整備等）
- 町民の生命を守る体制の強化（消防防災体制及び救急救助体制の強化）

### 2 暮らしの再建

- 被災者の生活再建支援（生活再建の支援、仮設団地の環境改善、住宅再建の支援）
- 町民が元気で安心して暮らせる保健福祉の推進（健康づくりの推進、地域福祉の向上等）
- 町民が快適に生活できる生活環境基盤の整備（上下水道施設の復旧、災害瓦礫の適正処理等）
- ICTや再生可能エネルギーの活用（災害に強い情報システムの構築、スマートエネルギータウンの推進等）

### 3 地域経済の再興

- 水産業の復旧及び復興の推進（生産基盤の早期復旧、漁協の経営支援、水産加工団地の整備）
- 商業、工業及び観光業の復旧及び復興の推進（商業集積の形成、観光産業の振興、雇用創出等）
- 復興を牽引する農林業・農山村の振興（地域特性を生かした産地形成、復興需要を契機とした林業振興等）

### 4 教育環境の整備

- 地域を担う子供たちの教育環境の向上（教育環境の向上、就学の援助、施設環境の整備）
- 町民の主体的な文化スポーツ活動の促進（社会教育施設等の復旧、文化財の保存、防災文化の継承等）

## Ⅲ 復興に向けた重点プロジェクトの方向性

### ① 復興まちづくり創造おおつちプロジェクト

地域経済の復興を加速化させるため、町民、関係団体及び行政機関が一丸となって、新規ビジネス創出などのさまざまな活動に対する支援プラットフォーム（＝基盤・体制）を構築します。

### ② 歴史・文化・芸術の街おおつちプロジェクト

当町の歴史や文化、吉里吉里善兵衛などの偉人、ゆかりのある文芸作品等（NHK人形劇「ひよっこりひょうたん島」や小説「吉里吉里人」など）を活用したまちづくりに取り組みます。

### ③ 国際海洋研究都市おおつちプロジェクト

東京大学大気海洋研究所国際沿岸海洋研究センターを拠点とした海洋研究や湧水・淡水型イトヨに関する国内外の研究者等と町民との交流等を推進します。

### ④ 美しい街なみ・景観おおつちプロジェクト

当町の有する海岸美や味わいのある集落環境などを継承し、町民と行政が一体となって、町民が愛着の持てる、来訪者にとっては魅力のある美しい街なみ・景観形成を図ります。

### ⑤ スマートタウンおおつちプロジェクト

災害にも強く、安全・安心で持続可能なまちづくりを目指し、ICTを活用したまちづくりやスマートグリッドによる新エネルギー体制を構築します。

# IV 各地域の復興まちづくりの展開

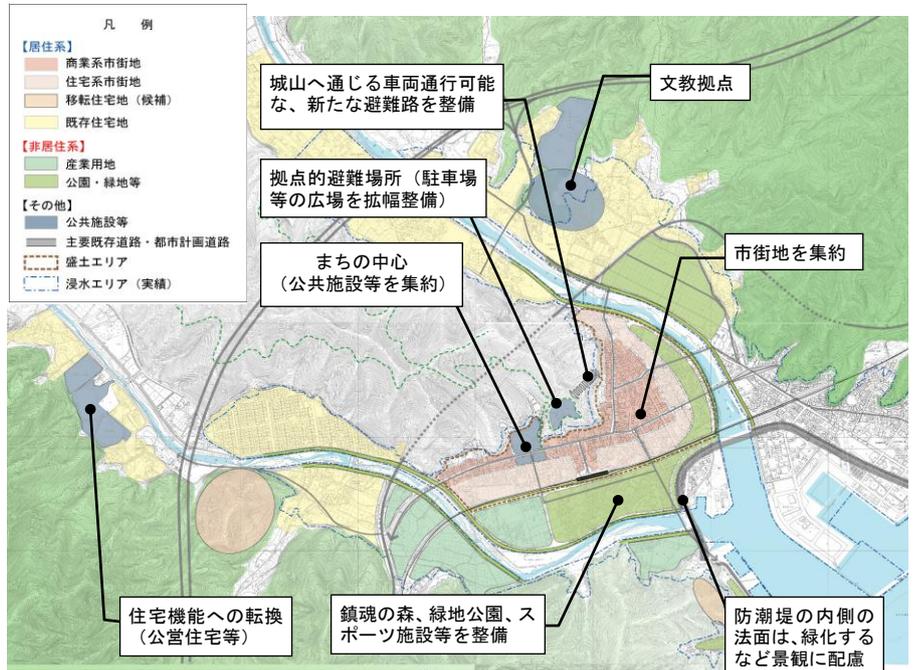
## 町方地域

### (1) 基本的考え方

- ・大槌町の歴史的な中心地である町方を、引き続き町の中心として再興することが多くの町民の願いです。安全・安心に配慮したうえで、町方を大槌の中心市街地として復興します。
- ・城山や豊富な湧水など、地域の歴史と自然の資源を活かした潤いのある都市空間の再生を進めます。

### (2) 復興方針(抜粋)

- 市街地の集約を図り、避難しやすいまちづくりを行います。
- 旧街道沿いには、公共公益的な施設や商業施設の立地を計画あるいは誘導し、中心市街地として再興すると共に、必要に応じて盛土等により安全性を高めます。
- 中心部の城山周辺、東側は大槌高等学校周辺(文教施設等)、西側は寺野周辺(公営住宅等)の3地点を公共施設の主要配置場所とし、また大槌川・小鍬川沿いの地域に移転希望者のための居住地を確保することによって、U字型のまちの骨格形成を図ります。
- 中心市街地とそれを取り囲む公園・緑地帯との接合部には、水(湧水等)を配するなど、緑豊かで潤いのある魅力的なまちづくりを行います。また、その緑地帯の一部に製造業・流通業などの産業用地を確保します。



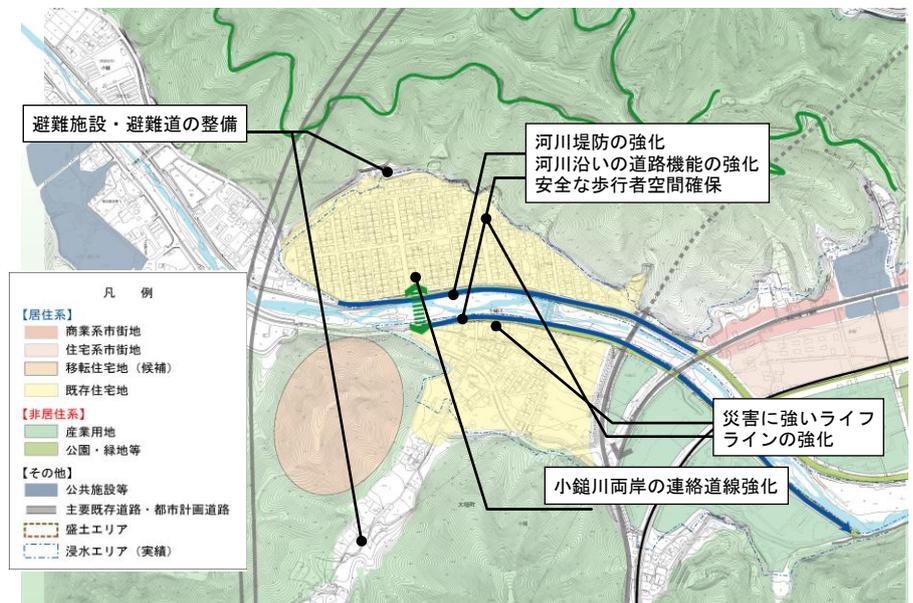
## 桜木町・花輪田地域

### (1) 基本的考え方

- ・津波をはじめ、洪水、土砂災害などに対しても安心できる総合的な防災まちづくりを推進します。
- ・小鍬川沿いの上下流方向の交通量の増加に対応して、子どもや高齢者が安全に活動できる公共空間の充実を図ります。

### (2) 復興方針(抜粋)

- 防潮堤を整備し、津波に対して安全性の高いまちづくりを行うことで、震災前の居住地を引き続き利用します。
- 小鍬川の治水安全性を確認しつつ、河川堤防及び地域内の排水機能等の強化を図ります。
- 津波から人命を守るため、高台で避難しやすい場所に避難所を整備すると共に、緊急物資を備蓄できる施設の整備を図ります。
- 城山に整備されている林道や今後整備される三陸縦貫道へのアクセスを確保し、また、桜木町・花輪田地域を連絡するための新たな架橋を整備する等、避難経路の充実を図ります。
- 総合的な防災力を向上させ、災害時に早期復旧が行えるようなライフライン整備を目指します。
- 仮設校舎及び仮設住宅の設置により、町方からの人口が移動していることと、今後開発が想定される住宅地の造成等により、寺野から小鍬方面の人口増加が見込まれることから、小鍬川上下流を連絡する道路機能を強化し、安心して移動できる歩行空間や交通安全施設の充実を図ります。



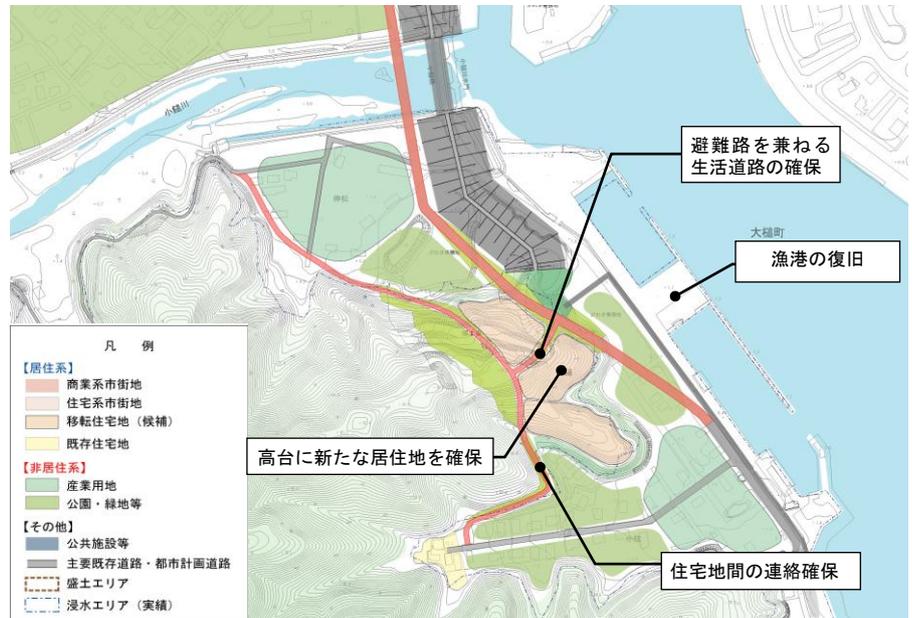
## 小枕・伸松地域

### (1) 基本的考え方

- ・小枕・伸松地域は、集落のほぼ全域が壊滅的な被害を受け、近隣に居住環境を創出するためには、少なからぬ地形改変や集落の孤立など、克服すべき課題が残ります。そのため、この場所に集落を再興することについては、町民の意向を踏まえつつ検討を継続することとします。
- ・被災前から続くコミュニティを尊重することとし、他地域へ移住することがあっても、これらのまとまりを維持したまま移住できる方法を検討します。

### (2) 復興方針

- 小枕と伸松の間の高台に居住地をつくり、被災前より続くコミュニティを極力維持できるような住宅や公共施設の配置を行い、集落の中心を形成します。
- 低地部は産業用地、中段は緑地とし、沢となる谷筋には無理な宅地造成を行わないこととします。
- 災害時に高台へと速やかに避難できる避難路や、孤立を回避する道路網を整備します。
- 万が一孤立した場合に備えるため、必要な施設・設備を用意します。
- 日常的に多用する町方への動線は、緩勾配や夜間の安全など日常生活に配慮した道路整備を行います。
- 漁港等の施設については、漁業が再開できるよう復旧します。



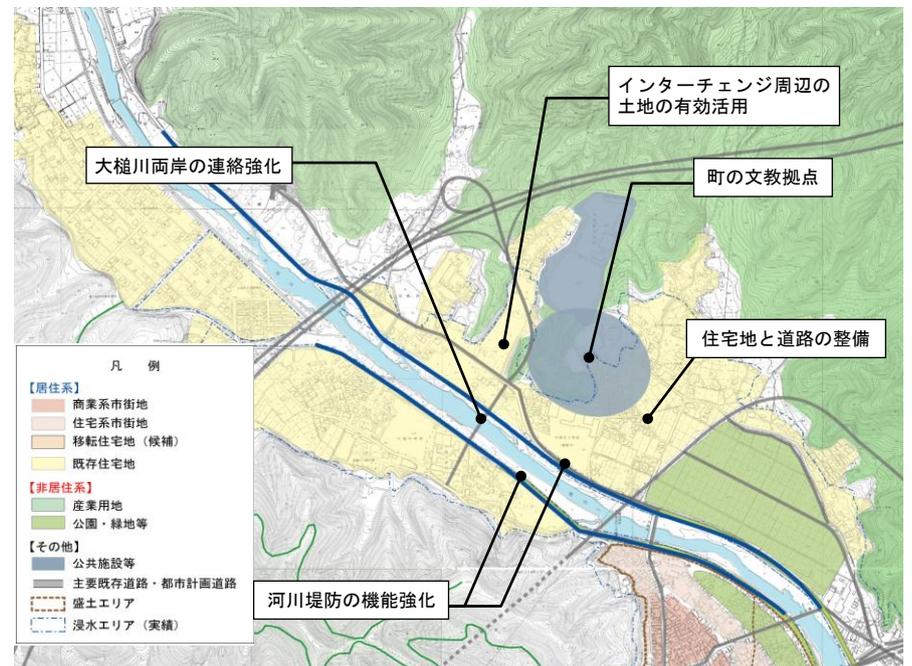
## 沢山・源水・大ケ口地域

### (1) 基本的考え方

- ・当該地域は今回の津波により一部地域で甚大な被害を受けましたが、町の中心市街地に近い主要な居住エリアであることから、より安全な住宅地として再興するとともに、豊かで活気のある地域となるよう整備を進めます。
- ・被災した沢山地域や大槌中学校周辺の土地利用の再編と、源水川付近の整備を検討するとともに、総合的な防災力の向上を目指したまちづくりを行います。

### (2) 復興方針

- 防潮堤を整備することで元の住宅地を再生するとともに、空地や公共用地を中心として移転者を受け入れるための宅地、災害公営住宅用地を整備します。
- 三陸縦貫道大槌インターをまちの入口と位置付け、関連する主要道路の整備を行い、地域はもとより町全体の活性化を図ります。
- 大槌北小学校の北側に小中一貫教育校を設置し、大槌高等学校と合わせて町の文教拠点とします。
- 沢山地域と源水地域を結ぶ新たな架橋を設置し、文教拠点へのアクセスを向上させると共に、両地域の一体化を図ります。
- 沢山の国道45号バイパスにおいては、津波防護に資する道路整備を働きかけるとともに、周辺地域の主要道路及び住宅地の整備を行います。
- 避難施設や避難路の整備を行い、地震や津波だけでなく、洪水や土砂災害等に備えた総合的な防災力の向上を目指します。



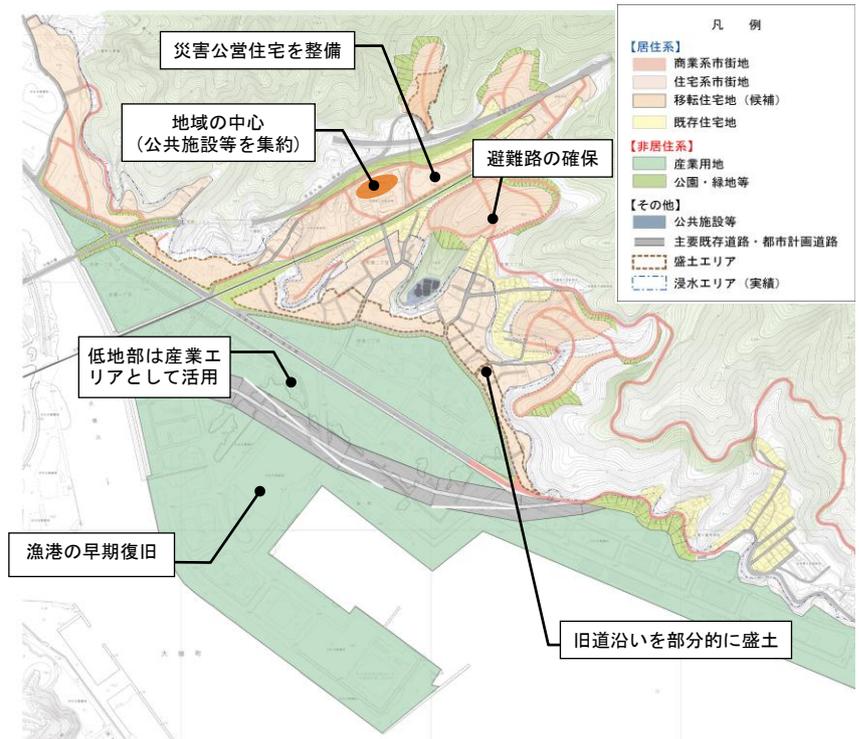
## 安渡地域

### (1) 基本的考え方

- ・安渡地域のコミュニティを維持しながら、高台に地域の中心を再編します。
- ・被災を免れた既存住宅地との繋がりを持たせるよう、居住エリアを山側に形成し、コンパクトで一体感を持ったまちを構築します。

### (2) 復興方針(抜粋)

- 山側の居住エリア、非被災エリア、低地部の産業エリアを繋がりのあるまちとして形成します。
- 安渡小学校周辺に核となる公共施設を配置し、新たなまちの中心部として位置付けるとともに、有事の避難拠点として必要な機能を持たせます。
- 新たな居住エリアとしては、国道45号付近、大槌稲荷神社の北側、赤浜への林道に沿ったエリア、安渡小学校周辺等を候補地とします。また、安渡小学校周辺には災害公営住宅を配置し、密度の高い居住エリアを形成します。
- 旧道(一部は県道)から山側を一定の高さまで嵩上げし、津波に対する安全性を高めます。
- 道路網は、行き止まりをなくすなど日常的な回遊性を確保すると共に、避難路としても効果的に機能するよう体系的な整備を行います。また、この体系に合致するように日常的に利用する場(小広場・公園・公共施設等)を配置します。
- 赤浜地域へ通じる林道の拡充整備を検討し、避難道及び連絡路としての充実を図ります。



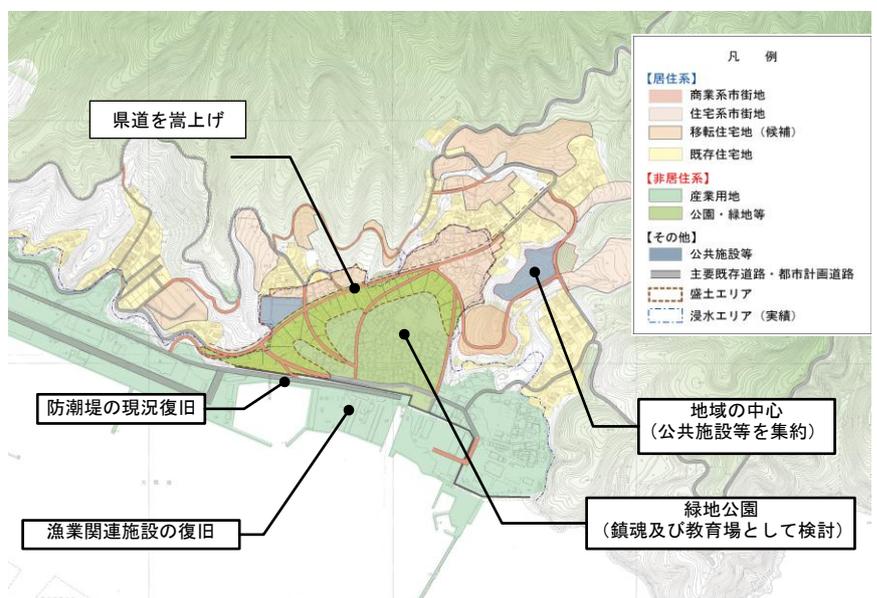
## 赤浜地域

### (1) 基本的考え方

- ・防潮堤に頼らず、非被災地域と一体となった住宅地を新たに形成します。防潮堤は旧来の高さに留め、津波を視覚的に認知でき、美しい海を悠々と望める居住エリアを創出します。
- ・赤浜のシンボル蓬莱島のある海辺にも近づきやすく、災害時にはどこからでも避難できる仕組みを構築します。
- ・災害時にも地域全体が一体性を保ち、周辺地域との繋がりを維持できるまちづくりを行います。

### (2) 復興方針(抜粋)

- 非被災地域と一体となる高台に新たな居住エリアを設け、その中心には、日常の集いの場であり、災害時の避難場所となる公共施設を配置します。
- 低地部は、産業・業務エリア、緑地公園として利用するだけでなく、津波被害を伝える鎮魂の場、教育の場として活用することを検討し、災害に強い人造りを行います。
- 防潮堤は既存施設の復旧とします。防潮扉は設置せず、日常生活道路と避難路を兼ねたスロープや階段を設置します。
- 県道吉里吉里釜石線は山側に路線変更するとともに、被災しない高さまでの嵩上げを行い、防潮堤に代わる施設として整備します。また、法面には生活道を兼ねた避難路を設置し、擁壁ではない勾配のゆるい土羽堤防とします。
- 安渡地域へ通じる林道の拡充整備を検討し、避難道及び連絡路としての充実を図ります。



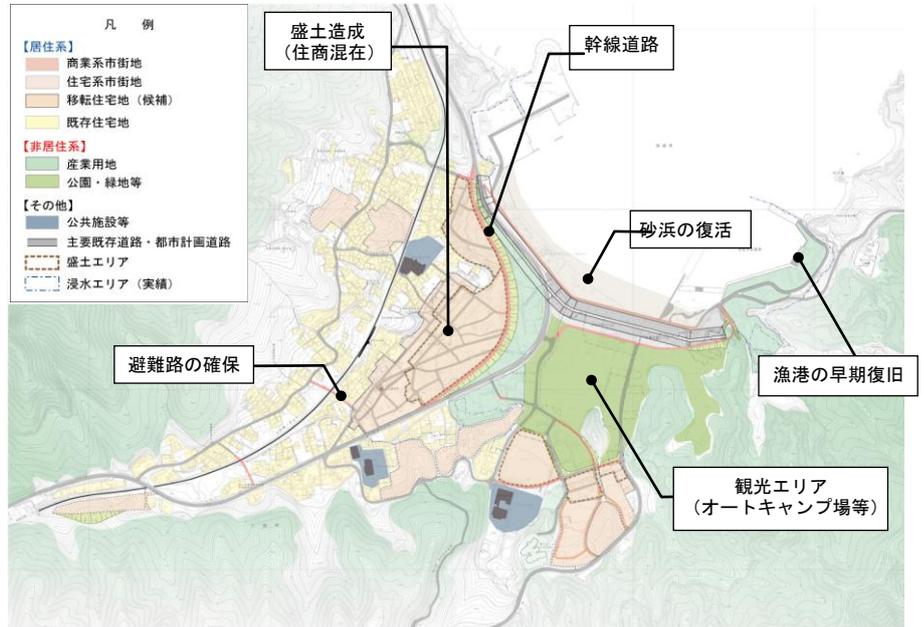
## 吉里吉里地域

### (1) 基本的考え方

- ・砂浜の広がる海と漁港やフィッシャーリーナ、それらに面し低地から斜面地へと広がる集落という魅力的な地の利を活かし、住民も来訪者も海とのつながりを感じることができる美しい吉里吉里地域を再生します。
- ・昭和三陸津波後に住民の手による復興計画で生まれたまちの中心を残しながら、居住エリアを山側へ移動し、安全でかつコミュニティを維持できる集落に再編します。

### (2) 復興方針

- 被災前のまちの中心部を残すために、国道 45 号の内側に幹線道路を配置し、その山側を盛土することで、商業系を含む居住エリアを構築します。また、新たに吉里吉里中学校周辺、西側の国道 45 号沿い、吉里吉里四丁目等を移転候補地として検討し、宅地及び災害公営住宅を整備します。
- 日常的な利用が見込まれる場所を選び、新たにJR山田線を越えて高台へ移動できる避難路や、地域の高台へと繋がる避難路を複数確保するとともに、合わせて既存道路網の拡幅整備を検討します。
- 低地部の危険な区域には居住しないこととし、緑地や公園、観光施設等を配置します。
- 当地域の重要な観光資源である砂浜を再生するとともに、海と集落の境界部分に砂浜と集落が一体的に感じられる空間整備を行うことで、災害発生時に海岸利用者がすみやかに避難できると同時に、海とのつながりを感じられる魅力的な場所を創出します。
- 漁港及び必要な関連施設を早期に整備します。



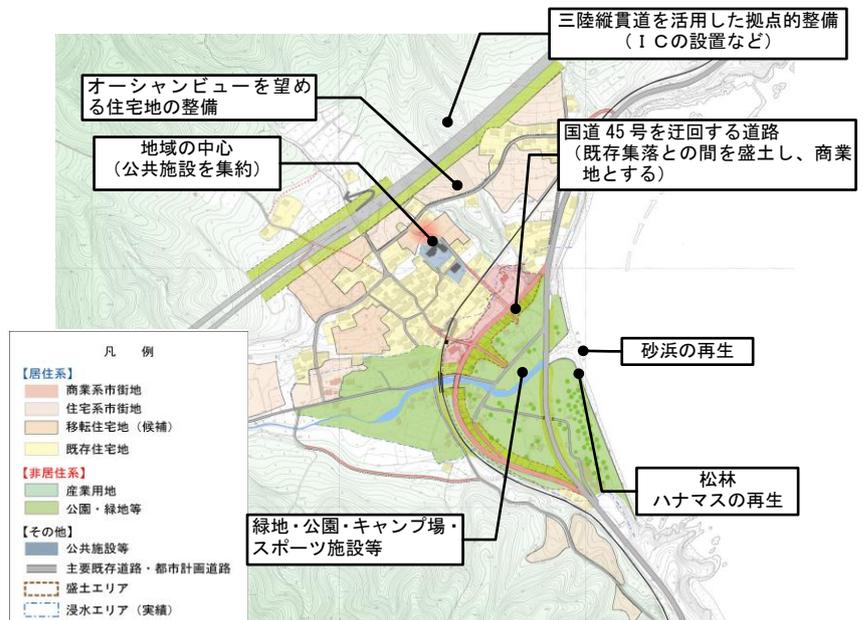
## 浪板地域

### (1) 基本的考え方

- ・砂浜の広がる海と松林やハマナスの咲く後背緑地、それらを望む緩やかな斜面地の集落という魅力的な地の利を活かし、住民も来訪者もつい散歩したくなる美しい浪板地域を再生します。
- ・今回の被災範囲より標高の高い場所に、既存集落と一体化する居住エリアを設けることで、まちの中心を山側に移動し、安全でかつコミュニティを維持できる集落に再編します。

### (2) 復興方針(抜粋)

- 新しい住宅地は、既存集落に隣接した場所を選び、災害公営住宅を含めオーシャンビューが望める住宅にすることで、将来的に他地域からの移住者も受け入れられる整備を行います。
- 浪板交流促進センターの周辺を新しいまちの中心部に位置付け、その脇を通る道路を地域の主要道路として拡幅整備することを検討します。
- 三陸縦貫道にインターチェンジなどの設置を働きかけるとともに、地域の道路網の整備を行い、国道等へのアクセスの向上を図ります。
- 地域の主要道路沿いには公共的な施設を配置し、生活の利便性を高めると共に、住民が日常的に集まれる場所をつくります。また、旧児童館については、消防屯所などの活用を検討します。
- 国道 45 号においては、津波防護に資する施設について、他機関との関係も踏まえつつ、その整備を働きかけるとともに、JR山田線沿いに国道 45 号を迂回する道路を嵩上げし、防潮堤の機能を持たせます。



## 小鎚地域

### (1) 基本的考え方

- ・災害時に避難者の受け入れ、炊き出し等の支援を行うことができるような後方支援基地として位置付けます。

### (2) 復興方針(抜粋)

- 行政との連携強化や地域内の防災組織を強化し、災害情報の地域内への伝達を徹底します。
- 小鎚地域での在宅受入可能人数やそれに伴う物資の必要量を把握し、避難者受け入れのマニュアルを作成します。
- 避難地住民の受け入れ候補となる公共施設等は、耐震化等の安全性を確保するとともに、食料等の備蓄や非常用発電設備の整備を行います。
- 災害時に地域の孤立を避けるため、ガソリン等の燃料や電力等を非常時にも確保できるような対策を実施します。

## 金沢地域

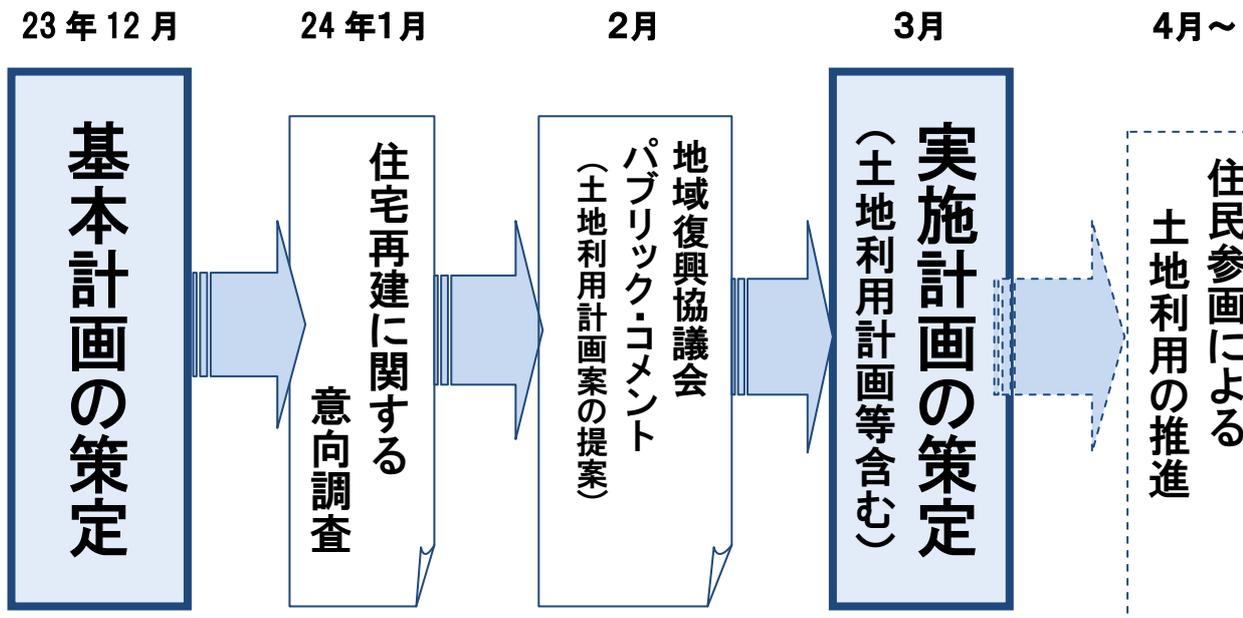
### (1) 基本的考え方

- ・海岸部において大規模災害が発生した際に、内陸方面からの支援を受け入れ、被災地へと結ぶ後方支援基地として活用します。
- ・平常時における山間部の交流拠点としての機能を果たすことが、災害時の被災地支援拠点としての活用に繋がることから、地域の総合的な機能強化を図ります。

### (2) 復興方針(抜粋)

- 金沢支所、生活改善センター、旧金沢小学校といった公共施設について、平常時は住民が利用でき、災害時にはボランティア等の活動拠点や避難者の受け入れ拠点として活用できるように、再整備や利用方法の検討を行います。また、これらの施設に備蓄倉庫としての機能を持たせます。
- 土坂峠が常に安心して通れるよう、主要地方道大槌小国線の土坂トンネルの早期実現などを目指します。
- 地域性を踏まえた小水力発電(水車)等、海岸部からの電力供給に依存しないエネルギー供給の手段を導入します。
- 地域住民を対象に、被災者の受け入れを想定した避難訓練を実施すると共に、最低限の備蓄などについて、マニュアル等を作成します。

## 今後のスケジュール



### 問い合わせ先

大槌町復興局復興推進室

〒028-1115 大槌町上町1番3号 電話0193-42-8714 FAX0193-42-3855